

科目名	子ども家庭福祉（保育士必修：社会福祉士必修）				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2021年度 前期	単位数	2		
担当教員	鈴木 勲				
内容および計画	児童家庭福祉の理念や法制度、現場で直面している今日的な課題などを取り上げ、保育者として必要となる基礎的事項を学ぶことを目的としている。なお、本講義では、視覚教材(DVDやビデオ等)、パワーポイントでの資料提示を行うなど、マルチメディアを効果的に活用していくことを予定している。				
1	イントロダクション 講義の趣旨説明及びスケジュールの確認を行う。				
2	子ども家庭福祉の理念と概念 子ども家庭福祉の基本的な理念を理解する。				
3	子ども家庭福祉の発展過程 日本の子ども家庭福祉の歩みとその変遷について理解する。				
4	子どもの定義、子どもの人権・権利擁護 子どもの人権と権利擁護システムについて学ぶ。				
5	日本と諸外国の子ども・子育てを巡る動向と課題 子どもの育ち、子育てをめぐる諸相と社会の変容について理解する。				
6	子ども家庭福祉の法体系 子ども家庭福祉の実施機関や、実施のために必要な法制度、予算制度を理解する。				
7	子ども家庭福祉の実施機関と専門職 子ども家庭福祉に関わる国、都道府県、市区町村行政の仕組みを理解する。				
8	少子化社会と地域子育て支援 少子化問題の現状とそれに対応するための施策、動向を学ぶ。				
9	多様な保育ニーズへの対応 多様な保育ニーズに対応するための保育制度及び政策の概要について学ぶ。				
10	子ども虐待、DV、非行等への対応 子ども虐待、DV、非行問題の現状と課題、対応方法を学ぶ。				
11	社会的養護 養育者のもとでは子どもの権利利益が護られない状況にあると判断された場合に提供される社会的養護について理解する。				
12	子どもの健全育成 子育て環境の変化と放課後児童健全育成事業について理解する。				
13	母子保健サービス 健康の意味の捉え直しや妊娠期からの切れ目のない母子支援について理解する。				
14	障害のある子どもと家族への支援 障害のある子どもの発達特性やニーズに応じた丁寧な支援について理解する。				
15	全体のまとめと振り返り 本講義全体のまとめと振り返りを行う。併せて、定期試験もしくはレポート提出についての説明を行う。				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	保育者養成のための「子ども家庭福祉」	川並利治、和田一郎、鈴木勲	大学図書出版	9784907166830	2018
参考書	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224)				

	社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでもよいが、新年度のものを必ず用意すること。	
成績評価		
	評価方法	割合(%)
	学期末定期試験	100
指定されたテキストの内容に沿って基礎的な知識を問う試験を実施する。		
学習到達目標	1.児童家庭福祉の理念・法制度を深く学び、子どもの最善の利益を考えられる保育士を目指す。 2.子育て支援や児童虐待、子どもの貧困、非行問題など、児童家庭福祉領域の抱える今日的な課題や福祉サービスの現状を具体的に理解する。	
先修条件	特になし。	
実務経験	実務経験あり：県庁に15年勤務した経験をもとに、子ども家庭福祉の基礎、応用について教授する。	
その他	新聞及び文献をとおして、普段から生活問題や社会問題、社会福祉に関する記事に注目し、何らかの問題意識を持って受講すること。授業展開は予定であり、授業の進捗などにより、内容などが変更される場合もある。	